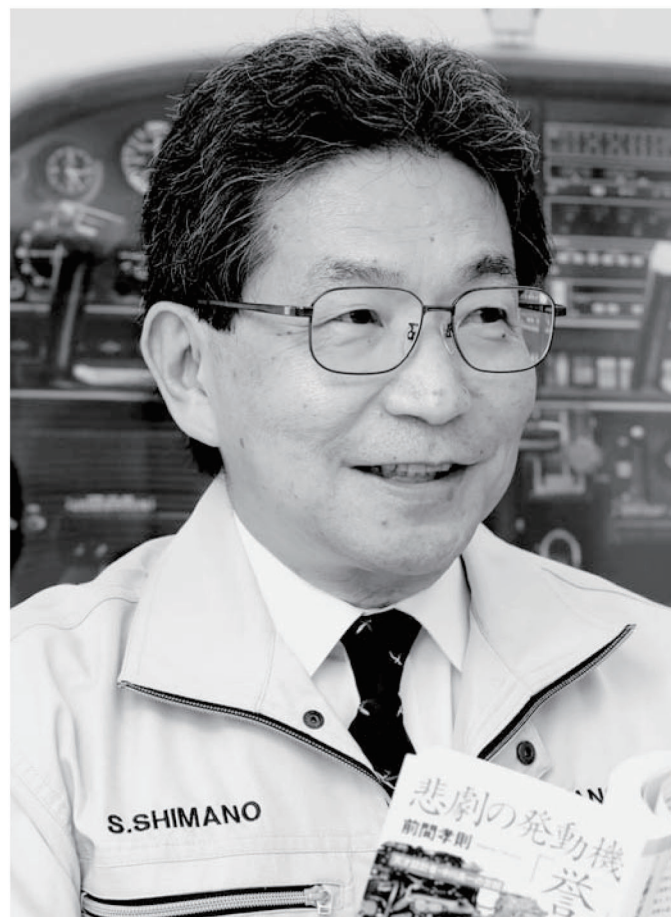


シマノ科研
代表取締役しまの しゅんの すけ
島野 俊之介氏

考えるヒントになった『How to Solve It (いかにして問題をとくか)』



何が分からないか明確にする

考える際のヒントになる本や技術に関連する歴史書など、月に10〜20冊の本を買っている。「これは！」と思う本は、何度か読み返してもいい。

まず挙げたいのがジョージ・ポリャ著『How to Solve It』。中学生の頃、先輩からその日本語版『いかにして問題をとくか』を薦められた。当時、パイロットでアラスカに単身赴任していた父を訪ねたとき、原書を渡された。

偶然の一致に驚き、原書と和訳版を読み比べた。数学を題材にし、社会的問題にも通用する解法の基本原則を教えられた。何が分からないかを明確にする、自分がどんな技術を持っているかを

確かめることが第一と訴える。最近も何人かにこの本を紹介した。

当社は、IoT（モノのインターネット）の先駆けとなる装置を開発し、今は駐輪場用の自動精算機などを手がける。米国で航空機操縦の教習所を経営したこともある。航空機やコンピューターは一瞬の停滞も1%の危険も許されないことを痛感している。

開発の難しさを教えてくれた本に、前編孝則著『悲劇の発動機「蒼」―天才設計者・中川良一の苦闘』がある。蒼は1930年代に2000馬力を出した、航空機用の小型・軽量レシプロエンジン。SUBARU（スバル）の前身、中島飛行機が製造した。

余滴……………余滴……………

信頼される仕事
約25年前、ポケットベル会社の交換機を電話網につなぐ仕事を託された島野さん。「社員数人の会社がNTT網に難なく直結させた」と米系企業

信頼される仕事

明治期に欧州の文明や技術を勉強し、野心的な発動機を生んだものの、トラブルの頻発など数奇な運命をたどる。当時の国力を無視した設計だった。政府も現実離れした数字を並べ立てた。その状況は政治不信が広がる現代とも重なり合う。

杉本貴司著『ホンダジエット誕生物語 経験ゼロから世界一へ』と前編孝則著『ホンダジエット 開発リーダーが語る30年の全軌跡』は、ホンダの藤野道格常務執行役員を描く。1冊だと見方が偏りがちでも、同じ題材で複数あれば補正可能。物事の成功の秘訣は、何より対象が好きであること。熱意は理論に勝るのだと改めて感じている。

余滴……………余滴……………

を驚かせた。内容が難解でも、中学から読み続けた『トランジスタ技術』が仕事に役立っている。信頼される仕事に国も年齢も規模も関係ない。（編集委員・山中久仁昭）